

Dear地球民

第 28 号
2005年3月発行

編集発行
〒259-0303

ゆがわら国際交流協会
神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-7-1
湯河原町商工会内 電話0465-63-0111



Welcome to Yugawara

ポースティーブンス市訪問団

2004年9月18日～21日 24名

ポースティブンスより24名来湯



通行手形拝見（箱根関所跡・20日）

04年9月18日～21日までの4日間姉妹都市・オーストラリアのポースティブンス市より24名が湯河原訪問町内の16家庭でのホームステイを通して友好交流を行った。

主な日程は次の通り

- 18日・午後到着～対面式（役場）
- 19日・生活交流（各家庭）
- 20日・箱根～湯河原ゆかりの美術館～独歩の湯～さよならパーティー（役場）
- 21日・早朝見送り（役場）



少しはやせるかな？
（独歩の湯・20日）



カンパニー！！いただきます。
（グッバイパーティー：役場・20日）



「凄いな〜！」
町に贈呈された女性陣
手作りの見事なキルト



また会いましょう！（ねむたいな〜）
（役場・21日）

04年度語学講座

中国語講座・講師：杉山鳴先生からのおたより

湯河原国際交流協会にお招きいただき、とても嬉しく光栄に思います。駿河小山から湯河原まで確かに少し遠いですが、中国語講座参加者の方々の情熱に負けてしまい、毎週の水曜日に湯河原に来ることが大変楽しみになりました。あっという間に8回の講座が終わってしまいましたが、何となく名残惜しい気持ちで一杯です。皆さんは一日の仕事が終え、お疲れになっているところに違いないが、毎回一生懸命に覚えようとする姿がひしひしと伝わってきます。湯河原に来て、そして皆さんと会えて、本当によかったなあと思います。祝大家学习进步！有机会 再见！お元気で！

英語で唄おう！ クリスマスソング教室の開催！！

英語講座・講師：スージー・フェイナー先生

日時：12月6日・13日

(19:30～21:00)

場所：スタジオ千夢

受講生：16名



国内外親善交流フェア

日時 04年11月23日

場所 桜木通り1号線

販売 ブラジルコーヒー・タイカレー等

実演 腰鼓欧秧歌 (国際理解講座)
葉維英先生と中国人留学生





江明賢(台)・尹汝景(韓)
嶋岡ファミリー



李京錦(韓)
中村ファミリー

はじめまして!!
留学生&ホストファミリー
ご対面!

第19回 やっさ国際交流
04年7月30日~8月6日



鄭恩姪(韓)
柳澤ファミリー



陳敏婷(香)
渡辺ファミリー



李佳穎(台)
鈴木ファミリー



朴昭炫(韓)
杉山ファミリー



楊鴻慶(台)
長谷川ファミリー



李浩(中)
茂田ファミリー





楊 田田(中国)
前田ファミリー



タミー・ミチコ・ヤマダ(ブ)
善本ファミリー



サンドラ生方(ブ)
村上ファミリー



シェイラ・ルジミラ・ドーラ(ブ)
棚橋ファミリー



パトリシア・アブラマント・
ゲルバチン(ブ)秋山ファミリー



ダニエル・エンドウ・イナダ(ブ)
神野ファミリー



ダニエル・ヒデキ・マツナガ(ブ)
岩倉ファミリー



アンドレッサ・オオシマ(ブ)
鳥光ファミリー



マリ・エステラ・シルヴァ(ブ)
早藤ファミリー



ワラプンヤ孤児院訪問

今年も11月30日より12月6日まで、7回目の訪問をしてまいりました。今回は、タイ、バンコクで一泊し、チェンマイを経由して、バングラデシュ・チタゴンに入りました。チタゴン空港は2年前より日本企業の力で立派な国際空港となり、すっかり見違えてしまいます。トイレも日本語で「押す」と書かれており、チタゴンに限っては、日本人だと非常に友好的な扱いを受け、なんだかとても嬉しい入国です。それでも昨年までは、入国審査には少し時間がかかりましたが、今年はまことにスムーズに進みました。

町も年々綺麗になり、今年は道もとても綺麗になっています。これまではオート・リキシャの吐き出す排気ガスの質がとても悪く、マスクをかけていないと気分が悪くなってしまい、マスクは町では私達にとっては必需品でしたが、今年初めて一度もマスクをかける事無く通過することが出来ました。本当に驚きです。

今回は私達夫婦のほかに、湯河原マッサージ師会の田代広伸氏、数十年に渡る座禅の生徒の佐藤氏（船橋在住）も同行し、4人での訪問となりました。佐藤氏は2000年2月の第1回の訪問に同行されており、今回孤児院のスタッフが彼の名前を覚えていたことを大変喜んでおられました。両氏とも、昨年から同行を希望されていたのですが、昨年はまだ危険度が高すぎ、孤児院の受け入れ態勢も出来ていませんでしたので、今年もようやく満を持しての訪問となりました。孤児院の中は、昨年の訪問に比べてだいぶ落ち着いており、子供達の明るさに、テロの犠牲になった故ジャナディティ比丘も本当に喜んでいるようです。

今回、田代氏はボールや、バドミントン、野球、そして風船等の沢山の遊具を持ってきてくださり、子供達と毎日楽しく過ごしておられました。又、佐藤氏は折り紙がととても上手で、女の子達にせがまれて、ずっと折り紙を折っていらっしやいました。

今回特に印象的だったのは、昨年は表情がまったりしなかった新入生達が、実に明るく楽しそうに子供らしさを取り戻していたことです。又、今回は私達の訪問にあわせて、亡きピクの弟さんの結婚式がおこなわれました。この2年間悲しい出来事ばかりでしたので、スタッフも、子供達も久しぶりのお祝いに大いにはしゃぎ、楽しみました。

警備のほうは、15名程の警官が日替わりで交代しながら朝、晩と孤児院の周りを警護してくれています。子供たちともすっかり仲良くなったようです。警官の皆様にもお礼を申し上げ、子供達の命をくれぐれもよろしくお願いしてまいりました。

訪問のたびに新入生が増え、今年は男子4名、女子2名が入りました。一方当然卒業していく生徒達もいます。彼らを見送るのは、嬉しいような寂しいような複雑な気持ちですが、何よりも生きて成長していく姿は、尊く、輝いております。

卒業生達が、その後社会に出て生活が出来るような仕事の斡旋等が、これからの私達の課題だと考えております。

以上簡単ですが、7回目のワラプンヤ孤児院訪問のご報告とさせていただきます。

皆様の温かいご支援を心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

（吉祥院 尖秀雄）

今回、吉祥院住職・尖夫妻と佐藤氏(禅道場)と一緒に、ワラプンヤ孤児院を訪問した。3時間位かけて施設の門に一步踏み入ると、子供たちが一列に並んで迎えてくれた。女の子は尖婦人に、男の子は尖住職に纏わり付き大喜びしていた。この施設には9歳から17歳までの子供たちが130名位、スタッフが10名位で一緒に暮らしていた。

私は子供たちにスポーツ用品(サッカー・フットサル・バレーボール・バドミントン・卓球)をお土産として持って行き、それで子供たちと朝から日が暮れるまで一緒に遊び、2日ぐらい筋肉痛になっ

てしまった。食事は私たちゲスト、次にスタッフ、最後に子供たちの順で取り、料理は毎回



仲良しになった子供達と筆者

色々なカレーで、とてもおいしく私の口に合った。子供たちは朝と夜の2回、ご飯と塩だけの時もあるようだ。

子供たちの日課は朝6時のお祈りと瞑想そして説法を聞き、次に前責任者(ジャナディディ師)と彼の父の墓参りに行き、そこでまたお経を上げる。それから2時間ほど勉強して朝食を取り学校に行く。学校は午前と午後の2班に分かれて授業があるようだ。夕方6時から朝と同じ修行を行い、2時間勉強後夕食を取る。

彼らの挨拶は目上の人の前でひざまずき、相手の両足の甲に手を触れ、自分の額に触れ合掌する。

子供たちの部屋は土間で竹作りの二段ベッドが並べられ、豆電球があるだけで薄暗かった。そのベッドに寝てみたが、布団も薄くジメツとして寒く感じた。男の子の服装はズボンとシャツだけで下着を着けていないようだった。

子供たちは皆純粹で明るく、目が輝き、一緒にいるだけで、私の心が癒された。

(田代 広伸)

クリスマスオークション売上金の送り先

オークションの売上金は55,700円です。売上金は下記各団体へ送金させていただきました。

NESA (ネパール教育支援)	¥10,000
ワラプンヤ孤児基金	¥10,000
(バングラディッシュ孤児院支援)	
あしなが育英会 遺児奨学金	¥5,000
あしなが育英会 海外遺児心の支援口	¥5,000
NGO椿グループ・アブサラプロジェクト	¥5,000
(カンボジア教育支援)	
アンコール日本文化交流会	¥5,000
シャプラニール	¥5,700
(インド洋大津波救援募金)	
(財)日本ユニセフ協会	¥10,000
(スマトラ沖地震緊急募金)	

X'mas Party

当協会恒例のクリスマスパーティーが、04年12月22日にゆがわら童夢で開催されました。参加者は、大人43人、子供17人の計60人でした。





春秋に義戦なし

これは中国古代史に出てくる孟子の言葉である。紀元前289年頃は、まさに中国は戦国時代だったらしい。孟子は紀元前372年?の生まれだから、お互いが正義を主張して、内戦を繰り返した過去の中国の戦国時代を振り返り孟子は、これを“春秋に義戦なし”と伝授したのだろう。

私は中国の歴史に詳しくはないが、山本夏彦氏が好んで使っていたので、私なりに解釈して、どんな戦争でもお互い、自分こそが正義を以って戦えるのだと言うのだ。例えば、日本とアメリカとの戦いで、60年前に敗戦を迎えたが、双方に正義があったのである。残念ながら、圧倒的、膨大な戦闘力でまるで戦争にならなかった。

しかし、昭和20年3月10日の東京大空襲に遭遇した私は、かろうじて命冥加に助かった。原爆も二個も落とされた。これについても、アメリカは正義のために落とすのだと、説明している。

目下日本では戦前は全て悪で、戦後の日本は善で、平和が奇妙な形で続いている。これも平和憲法のお陰であると、主張する人もあれば、日本を取り巻く環境を見ると、必ずしも、何の保証もない。イラクでアメリカは民主主義国にしようと苦勞しているが、

今やテロ戦で苦勞している。宗教戦争の形すら見せている。イスラムとキリストとの戦いの形だ。

先行きは全然見当たらないように見えるが、やがて民主主義が勝利を収めるのだと信じてアメリカは戦っているのだろう。他の諸国も、(日本も含めて)ひたすら信じてテロとの戦いを続けておる。

イラクで国政選挙が行われるのは、およそ50年ぶりだという。多くの新聞、アメリカの「識者」と言われるジャーナリスト、日本の所謂識者の多くは、イラクの選挙は失敗するだろうと述べていたが、民主主義への熱い希望が沸々と煮えていたのだ。イスラムであろうと、宗教を超えて民主主義が勝ったのだ。時間はかかるだろうが、60%を越えるイラクの人々は、独裁政権に苦しみ、異なる宗教に苦しみながらも、最後は民主主義政権に、自国の安定を委ねたのである。

アメリカのニューヨーク・タイムスだけが、自社の見通しが間違っていたのを社説で謝った。日本人の堂々と謝ったという記事は見たことがない。

今や日本では平和と唱えているだけで、果たして平和が保てるのか、心配だが未だに戦前の古い罪状を暴いて問題にしている新聞社と放送界のトラブルが起こっているが、世の中は正義ばかりではないと、一言雑文を書いてみた。
(石井立夫)

石井さんがホームページを開設しました。
皆様どうぞご覧ください。
<http://www.geocities.jp/tatsuo1920/>